

# 研究構想

学校教育目標 **夢と志を持ち、共に高め合う児童の育成**

育成を目指す資質・能力

- ・知識及び技能
- ・思考力、判断力
- ・表現力
- ・主体性

〈めざす子ども像〉

- ① 自ら考え、行動する子
- ② 学び合い、表現する子
- ③ 郷土を愛する子

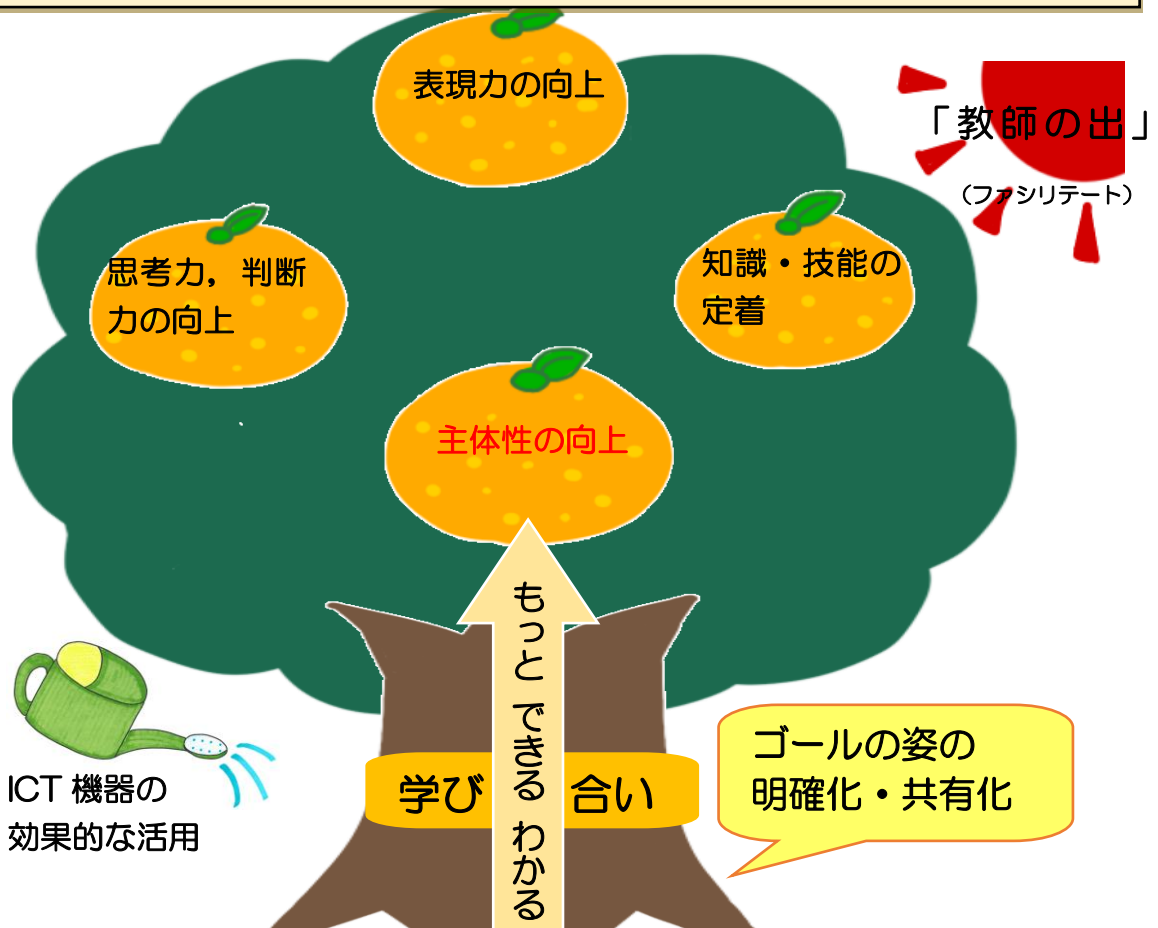
地域や保護者の願い

- ・基礎学力の充実
- ・豊かな心
- ・健やかな体と体力
- ・強い心

〈小・中連携〉  
二中学区小中連携

研究主題 **「わかる」「できる」「もっと」を引き出す授業の創造**  
～ゴールの姿と「教師の出」を明確にすることを通して～

研究仮説 ゴール姿を明確化・共有化することや「教師の出」を明確にすることで、児童は、「わかる」「できる」「もっと（～したい）」を実感し、本校で目指す資質能力の向上や主体的・協働的に学び続けることができるであろう。



基礎学力の定着～校内検定の実施，フォローアップの工夫，読み上げシートの活用等～

伝え合う活動の充実

個のつまずきの把握と  
個に応じた指導

振り返り活動の充実

学級経営（あたたかく・認め合う学習集団づくり）

# 研究の概要

【研究テーマ】	「わかる」「できる」「もっと」を引き出す授業の創造 ～「ゴールの姿」と「教師の出」を明確にすることを通して～
【目指す成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で育てたい資質能力(主体性, 思考力・判断力, 表現力)の向上</li> <li>・NRT の結果 (現状数値以上)</li> <li>・単元末テスト (国語科・算数科・理科) 期待得点 (80点) 以上の児童の割合 (80%以上)</li> <li>・授業改善を通じた学力, 学習意欲の向上</li> <li>・Q-U2回目の一次支援の数値向上 (全学級で1回目以上)</li> </ul>
【本校で育成したい資質・能力】	○主体性 ○思考力・判断力 ○表現力 ○知識及び技能

## 【児童の実態】

単元末テスト(3学期) 正答率

教科	観点	1年	2年	4年	5年	到達率
国語科	知識・技能	96.4	66.1	89.7	77.9	82.5
	思考力・判断力・表現力	92.5	67.8	94.2	92.9	86.9
算数科	知識・技能	96.7	78.8	89.3	85.5	87.6
	思考力・判断力・表現力	80	70.1	81.5	73	76.2
理科	知識・技能			85.8	87.8	86.8
	思考力・判断力・表現力			91.5	81.7	86.6
計		91.4	70.7	88.7	83.1	83.5

		2年	3年	4年	5年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均			50.6	47.7	50.8
	本年度結果 偏差値平均	43		45.4	52	47.2
算数	前年度結果 偏差値平均			52.2	49.8	49.2
	本年度結果 偏差値平均	45		48.2	54.3	48
理科	前年度結果 偏差値平均				53.3	52.6
	本年度結果 偏差値平均			51.4	51.7	49.4
全体	前年度結果 偏差値平均			51.4	50.3	50.8
	本年度結果 偏差値平均	44		48.3	52.7	47.7

昨年度まで算数科を中心に研究を進めてきた。単元末テストでは、算数科の思考判断表現力で全ての学年が目標値を下回っている。また、国語科の知識技能では2学年が目標値を下回っている。また、個の学力差も大きく見られる。NRTの結果では、国語科で全学年が平均を下回っており、算数科では3学年中2学年が下回っていた。資質能力の児童アンケートでは、「表現力」が目標値を下回った。子どもの実態からも自分の考えを相手に伝えるように表現したり、自分から進んで粘り強く取り組んだりすることが難しい児童が多い。

## 【研究概要】

### 1 研究仮説

ゴールの姿を明確にし、子どもと共有することや「教師の出」を明確にすることで、児童は、「わかる」「できる」「もっと(～したい)」を実感し、本校で目指す資質能力の向上や主体的・協働的に学び続けることができるであろう。

### 2 研究内容

#### (1) ゴール姿の明確化・共有化

- ・単元構想：ゴールの姿を明確にするには、教師自身が単元を構想し、子どもにつける力を明確に持つ必要がある。そして、子どもの実態に応じたゴールを設定する(させる)ことで、児童は見通しをもって学ぶことができる。

- ・課題設定：「なぜ」「どうして」「やってみよう」「できそうかも」「どうしたらとけるだろう」等の気持ちを引き出す課題設定の工夫が必要不可欠である。日常生活と関連付けた提示、問いや驚きの生まれる提示、既習事項との関連に気づく掲示等、児童の問いの発生を促し、設定したゴールに向けて問いが繋がる授業づくりを行っていく。

- ・課題解決スキル：課題解決をするための学び方のスキル(「問題を把握する」・「既習事項と関連させて、問題解決の方法を見出す」・「課題(問い)を設定する」「答えを導き出す」「情報や

友達の考えを整理分析する」「まとめる」「振り返る」の定着を図ることで、児童主体となって取り組めるようにしていく。

#### (2) 「教師の出」

・本校では学習リーダーを中心に授業を展開しているが、教師がどの場面で出ることが児童の主体的な学びに有効なのか、どんな役割があるか等、校内研修で深めていく。

#### (3) 基礎学力の定着

・読み上げシート：算数科の読み上げシート1分間チャレンジを通して、自己の成長を実感できるようにするとともに、基礎学力や情報処理能力、集中力等を高められるようにする。

・フォローアップの工夫：児童の実態に応じた課題を計画的に実施する。

・検定の実施：校内検定（漢字・算数・理科）を計画的に行うことで、目標に向けて取り組めるようにする。

#### (4) 研究を支える取組

・伝え合う活動の充実：自分の考えと根拠を明確にした表現の場を設定したり、全校児童や地域の方等に表現する機会を意図的に設けたりすることで、相手意識・目的意識を持って伝えられるようにしていく。

・振り返り活動の充実：自己の振り返りを大切に、自己や仲間の成長や課題を実感しながら自己を見つめてみがかの向上を図るようにする。そのために、全校で「ふりかえりのヒント」を活用し、本時で分かったこと（内容）だけではなく、どのように今までの知識を活用して考えたか（方法）や、自己の学び方について振り返ることができるように、必ず振り返りの時間を確保し、45分の学びを振り返り、次につながるようにする。

・個のつまずきの把握と個に応じた指導：児童の実態やつまずき等を把握するとともに、児童一人一人の「分かった」「できた」という達成感を重視した個別の学習支援を実施することが大切である。そのために、NRT や Q-U の結果を基に、学年・個の実態やつまずきを校内研修で共有し、それに応じた支援をして、改善していけるようにする。

#### 【成果指標と目標値】

・国語科，算数科，理科 単元末テスト期待得点（80点）以上の児童の割合（80%以上）

・資質能力アンケート 児童の自己及び教職員アンケート

【4（あてはまる）3（どちらかといえばあてはまる）の数値向上（4月以上）】

・NRT の結果（現状数値以上）

・Q-U2回目の学習意欲の数値向上（全学級で1回目以上）